

第 13 回 北東アジア国際観光フォーラム(大分市)
「北東アジアの観光振興と日本の国際観光」

How to promote tourism in North-East Asia and Recent Int'l Tourism in Japan

大阪観光大学名誉教授 鈴木勝

(Professor Emeritus, Osaka University of Tourism)

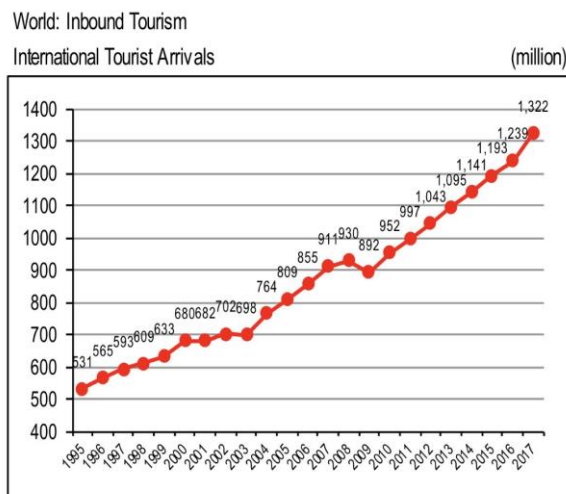
1. はじめに

みなさま、こんにちは。私は大阪観光大学の鈴木勝でございます。本日は、このような発表の機会を与えていただき、「北東アジアの観光振興と日本の国際観光」のタイトルにてお話できますこと、誠に光栄に思っております。

北東アジア国際観光フォーラムは今回で 13 回目ですが、観光交流の促進のためには北東アジア観光関係者が、より意見を交換し、交流し、連携を深め、相互に協力できる態勢づくりをすることが必要であると思っております。「北東アジア国際観光フォーラム (IFNAT)」は、北東アジア観光開発および発展のために、多くの意義ある貢献をなしつつあると強く信じています。私は、毎年、このフォーラムに参加し、発表しております。本日は、世界の観光動態、特に北東アジアについて、また、日本の観光に関して述べたいと思います。

最初に、最近の世界および北東アジアの観光の実態に関して述べたいと思います。2018 年 1 月発表の世界観光機関 (UNWTO) によれば、2017 年の世界観光客到着数は、2013 年に初めて 10 億人の大台に乗りましたが、さらに大幅の 7%アップの 13 億 2,200 万人に達したとの報告です。2018 年には世界全体が 4%~5%アップで伸びると予想されています(図表 1)。

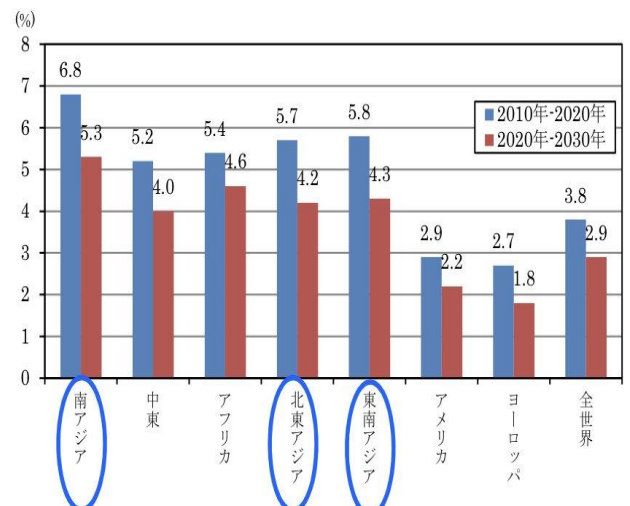
(図表 1) 2018 世界観光客到着 (UNWTO)



Source: World Tourism Organization (UNWTO) ©

資料 : UNWTO2018

(図表 2) 国際観光客の年平均伸び率の予測



資料 : UNWTO (国連世界観光機関) 資料に基づき観光庁作成

資料 : 観光庁「観光白書 2017」

世界観光機関の発表によれば、国際観光は、経済環境の変化、インフルエンザ、津波、テロなどの事故や事件が世界で発生しても、多少の落ち込みはあるものの、総じてコンスタントに増加しつつあります。中でも「アジア太平洋」は、極めて高い伸び率を示す地域であり、特に日中韓を中心とした「北東アジア」の観光は、この10年、世界的平均が3.8%の数値の中にあって、5.7%の伸長とめざましい状況です。この傾向は次の10年も続き、世界平均を上回って進むことが予想されています（図表2）。

2018年1月現在発表の数値では、2017年は「北東アジア」は1億5,930万人の到着数がありました。「北東アジア」は、他の地域と比較して、かなり伸びていることがわかります。

図表3 「北東アジアにおける国際観光客到着数」（単位 Unit：100万人：Million）

YEAR REGION	2000	2005	2010	2015	2016	2017*	SHARE 2017*	16/ 15 (%)	17*/ 16 (%)
	North East Asia	58.3	85.9	111.5	142.1	154.3	159.3	12.0	8.6
South East Asia	36.3	49.0	70.5	104.2	110.8	120.1	9.1	6.3	8.3
Oceania	9.6	10.9	11.5	14.3	15.6	16.6	1.3	9.4	6.5
South Asia	6.1	8.3	14.7	23.4	25.1	27.7	2.1	7.0	10.4
Asia & The Pacific	110.4	154.1	208.2	284.0	305.8	323.7	24.5	7.7	5.8
World	680	809	952	1,193	1,239	1,322	100	3.9	6.7

資料：世界観光機関（UNWTO） 2018年1月発表 [2017*]暫定数値

2. 最近の日本の観光

国際的な伸びに比較し日本の概況はどうでしょうか。小泉元首相は2003年の施政方針演説で「観光立国の道」を表明し、「2010年に1,000万人」の訪日外国人誘致プランを発表しました。2007年には「観光立国推進基本法」が策定、そして施行され、2008年には「観光庁」が設置されました。「ビジット・ジャパン・キャンペーンVJC」が2003年にスタートし、前半は官民による活発な活動と円安などの追い風も手伝い、順調な伸びで進みましたが、後半になり世界的な経済不況に加え円高が影響を及ぼし、目標の「1千万人」に到達しませんでした。その後、2011年に東日本大震災を経て落ち込みを見せましたが、2013年に1,036万人となりました。さらに、2015年、2016年は順調に推移しました。2017年は前年を大きく超えて、2,869万人に達し記録的だと、2018年1月に政府から発表されました（図表4）。政府はもちろん、地方自治体、民間企業、国民全体の協力の賜物であります。特に、継続的な観光プロモーションや種々の渡航緩和政策の効果が著しくあります。しかしながら、急増の訪日外客に関し、中国人や韓国人などの少数の国々に依存する体質に課題がないわけではありません。

(図表 4)

【日本の国際観光量】 (単位：百万人)
「International Tourism Volume in Japan」 (Million)

Year Out/In	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Japanese overseas Tourist 日本人 海外旅行	15. 446	16. 637	16. 994	18. 491	17. 473	16. 903	16. 214	17. 116	17. 900 +4.5%	18. 200
Foreign tourist to Japan 訪日 外国人	6. 790	8. 611	6. 219	8. 358	10. 364	13. 413	19. 737	24. 040	28. 690 +19.3%	32. 000

Ref: UNWTO/JNTO (Japan National Tourism Organization)
2018(JTB 見通し FORECAST)

他方、日本人海外旅行者は、この10年近く1,700万人前後の数値で推移していますが(図表4)、これは経済不況、テロ問題、若者の海外旅行離れなどに加え、日中や日韓の政治・外交的な緊張も原因の一つでもあります。日本は2020年に首都東京で、オリンピックやパラリンピックのホスト国としての栄えある機会を得ています。このビッグ・イベントを生かして、2020年までに4,000万人、2030年に6,000万人の訪日外国人を迎える目標を設定し、現在、勢いよく進んでいます。

3. 北東アジアの観光交流のトレンド・特徴と今後の振興策

北東アジア観光圏のトレンド・特性はどうか。また、今後の観光活性化はどうすべきでしょうか。なお、本論での「北東アジア観光圏」は、日本、中国、韓国、モンゴル、ロシアとするため、国連世界観光機関による発表の統計地域とやや異なります。

(図表 5) 「北東アジア観光圏の国際観光客到着数」(UNIT 単位：100 万人 Million)

Year Nation	2005	2010	2015	2016	2017	16/15 (%)	17/16 (%)
Japan	6.728	8.611	19.737	24.039	28.691	21.8	19.4
China	46.809	55.665	56.866	59.270	60.740	4.2	2.5
Korea (ROK)	6.023	8.798	13.232	17.242	13.330	30.3	-22.7
Mongolia	0.339	0.456	0.386	0.404	0.469	4.7	16.1
Russian Federation	22.201	22.281	26.852	24.571	24.390	-8.5	-0.7

資料：世界観光機関(UNWTO) 2018年1月発表 [2017*]暫定数値

まず、北東アジア観光圏の国々の国際観光の人員や旅行事情を見てみましょう（図表5）。「中国」は、毎年多くの観光客がコンスタントに訪問しています。なんとといっても、世界中にインパクトを与えているのは、中国人のアウトバウンド客です。2017年は、1億3,000万人に上っています。他方、外国人による中国旅行は、中国の大気汚染や食の安全問題で敬遠され、訪問者数が落ち込んでいます。「韓国」の国際観光は、インバウンド分野では最近、大きな変化をもたらしています。2017年は、「-22.7%」と大きく減少しているのは、中国と韓国の政治外交的な問題で、中国人旅行客が大幅に減少しているからです。「モンゴル」の国際観光に関しては、絶対数は少ないですが、インバウンドおよびアウトバウンドも双方、伸びています。「ロシア」観光に関して、インバウンドは決して順調ではありませんが、ロシア人海外旅行者は順調に世界を旅行しています。

さて、各国に関して簡単に述べましたが、北東アジア観光圏の特徴と今後の振興手法を述べてみたいと思います。

まず1番目に、「いびつな国際観光交流」や「隣国でありながら、極めて少ない国際交流」があります。2016年の事例で述べたいと思います。

* Japan⇔China(8.85 mil.) Japan⇒China(2.48 mil.) China⇒Japan(6.37 mil.)

* Japan⇔Korea(7.38 mil.) Japan⇒Korea(2.29 mil.) Korea⇒Japan(5.09 mil.)

* Japan⇔Russia(0.14 mil.) Japan⇒Russia(0.085 mil.) Russia⇒Japan(0.055 mil.)

* Korea⇔China(12.5mil.) Korea⇒China(4.44 mil./2015) China⇒Korea(8.06 mil.)

「いびつな2国関係」ですが、例えば、「訪中日本人旅行者：訪日中国人旅行者=248万人：637万人」です。2017年では、さらにこの傾向は拡大されているようです。また、「日本と中国」や「中国と韓国」との国際交流が最近、激しく動いています。これは政治的な動きが影響しています。次に、「隣国同士の極めて少ない2国交流」ですが、日ロ間の年間交流は「訪日日本人旅行者：訪日ロシア人旅行者=84,600人：54,800人」です。2017年は、良化している傾向にあります。ビザの免除・緩和政策や各種書類関係を少なくするなどの努力が、北東アジア観光圏では必要でないでしょうか。

2番目は、「シーズン波動が大きく価格が高い」ことです。総じて、この北東アジア観光圏の航空券は、割高で、フライト数も少ない傾向にあります。そして、冬季には減便したり中止にしたりしています。ピークとオフのシーズンがはっきりして、冬季には極めて観光客が少なくなります。地域のネットワークである航空便、ホテル、旅行会社、ランドオペレーターなどは、もっと共同して、“特別エクスクーション料金”などの航空運賃や料金を出すべきだと思います。

3番目に、「現地受け入れ態勢が弱く、観光プロフェッショナルが少ない」。外国旅行者受入のための開発、ガイド・通訳・旅行担当者などのサービス向上が重要であり、人材養成にもっと力を入れるべきです。

4番目に、「観光に関する情報や統計の発信が少なく、観光プロモーションが弱い」。最新の観光情報や安全情報の発信、観光統計に関する情報に関しては、北東アジア観光圏

では、極めて少ない状況であります。これらの情報は、観光関係者はもちろん、旅行者にとって極めて重要です。

4. 日本におけるTWOWAY TOURISMの推進

日本の国際観光の活性化をはかり、同時に、北東アジア観光圏に貢献する手法にはどのようなものがあるでしょうか。

現在の日本で強力に「インバウンド」に力が入っていますが、これだけに偏らない「TWOWAY TOURISM」を推進することを強く提案したいと思います。すなわち、「アウトバウンド」の推進です。特に、「教育旅行」や女性などの一人旅などの「個人旅行FIT」を推進したらいでしょうか。また、「若者の海外旅行離れ」の対策がどうしても必要であります。さらに、「観光立国・日本」作りには、現在の「日本人出国率 12.8% (JTB レポート 2017—図表 6)」では、近い将来、膠着状態になりそうであります。世界の観光先進国と言われる国々と比較すると、この出国率数値は極めて低い状況です。例えば、30~40%となれば、政府が目指す訪日客 4,000 万人や 6,000 万人とバランスが取れ、均衡ある観光立国が建設できると考えています。同時に、「北東アジア観光圏」の活性化に大いに貢献できると考えます。

(図表 6)

2. 出国率の国際比較 (2015年)																単位：%	
Comparison of Departure Ratios (2015)																Unit：%	
	日本 Japan	韓国 South Korea	台湾 Taiwan	中国 China	香港 Hong Kong	タイ Thailand	マレーシア Malaysia	シンガポール Singapore	インド India	インドネシア Indonesia	オーストラリア Australia	アメリカ U.S.A.	カナダ Canada	イギリス U.K.	ドイツ Germany	フランス France	ロシア Russia
出国率 Departure Ratios	12.8	38.1	56.1	8.5	142.8	9.4	145.9	164.9	1.4	3.4	37.9	10.2	29.3	101.0	101.4	43.8	31.4

資料：日本政府観光局「主要訪日旅行市場の基礎データ」より(株)JTB総合研究所作成

本日は発表の時間をいただき、厚く御礼申し上げます。また、来年、お会いできますことをお祈りいたします。(了)